

シカ捕獲の効率化について ～熟練職員の技を受け継ぐ～

四国森林管理局 安芸森林管理署 業務グループ ○村上 烈士
治山課 審査係 小林 風賀
(元安芸森林管理署)

1 課題を取り上げた背景

高知県のシカ生息数は令和4年度の高知県の推計によると約7万4千頭となっており、シカによる食害が林業に深刻な影響を及ぼしています。当署ではその対策としてシカ捕獲を行っており、主に獣道にくくり罠を仕掛けて、年間百頭前後を捕獲してきました。くくり罠によるシカ捕獲はどこに仕掛けるか、どのような仕掛けをするかなど、豊富な経験が必要ですが、シカを捕獲してきた職員の多くが退職間近となり、今後は技術の継承が重要となっています。技術を絶やさないためにも経験豊富な職員から罠を仕掛けるコツを教わり、だれでも獣道に罠を仕掛けてシカが捕獲できるように初心者目線のマニュアルを作成することとしました。

2 取組の経過と実践

マニュアル作成に当たって、現在シカ捕獲に取り組んでいる安芸・入河内森林事務所及び馬路森林事務所の職員に協力していただき、シカ捕獲について実践的な選択肢を絞って提示できるように技術を学びました。

実際に現場で罠の仕掛け方や仕掛ける場所、痕跡の見つけ方など、罠を設置する際の注意点を一から教わり、その知識を基に自分たちで場所を探して罠を設置しました。また、初心者でも簡単にシカの捕獲が可能となる方法として小林式誘引法（近畿中国森林管理局 小林 正典さん考案）も参考のために仕掛けました。捕獲したシカは安全に処置できるように電気止めさし器を使用し、埋設を行いました。

3 実行結果

罠を仕掛けた結果、2024年5月から9月で計14頭捕獲することができました（写真）。獣道にくくり罠を仕掛ける方法では安芸・入河内森林事務所管内で16基仕掛けて5頭捕獲、馬路森林事務所管内では17基仕掛けて5頭捕獲することができ、大きな差はありませんでした。しかし、小林式誘引法では安芸・入河内森林事務所管内で10基仕掛けて4頭捕獲、馬路森林事務所管内では10基仕掛けて0頭の捕獲となり大きな差がありました。シカが捕獲できなかった要因は、馬路森林事務所管内ではもともとヘイキューブを撒いて誘引していたため、警戒心が強いシカが多かったことなどが考えられます。



（写真：捕獲されたシカ）

以上を踏まえ、職員の長い経験に基づく知識と、実際に罠を設置してみて経験したことなどをまとめたマニュアルを作成しました。

4 考察

現場の経験を伝えられるよう、罠の設置手順や注意点を視覚的に分かりやすくしたり、実践に即したアドバイスを掲載したりして、熟練者が当たり前としていることにも焦点を置き、継承者が知りたい部分を反映できたのではないかと思います。中でも初心者にとって一番難しく時間のかかる罠の設置場所について重点的に説明しており、罠の設置場所の選定が容易になると考えています。これにより、シカ捕獲技術を絶やさず、森林被害の減少に寄与できればと思います。

今後は、さらなるシカ捕獲効率化のためにも、地形や環境に合わせて様々な罠を使用し、シカの痕跡把握と捕獲データ等の収集及び分析を行い、検証していきます。